愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトＢ		
担当者(Instructors)	辻 正人	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

小学校での授業を集中的に参観し、効果的に授業を進めるための工夫点や留意点を探る。特に、観察の観点や視点を絞り、教師のかかわりや子どもの反応に注目させることで、授業のポイントを押さえさせる。また、発問や板書の工夫にも目を向けさせ、4年次の教育実習の準備としても位置付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	名東区内の2小学校で3日間集中の学校参観を行う。そして、各自が設定した授業参観の観点や視点を基に振り返りながら、状況報告・集団討議し、授業分析を行う。学年を分けて参観することで、発達段階に応じた効果的な授業の展開や指導の在り方を探る。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	学校(授業)参観のガイダンスと2小学校のグルーピング	学校の仕組みの概要と学校(授業)参観の手順を説明し、受講者を2つのグループに分ける。	□
第2回	授業参観の諸視点の検討	授業参観の基本視点を整理して、各視点について説明する。 ①発問・目線②板書③机間指導④満足度⑤教室環境⑥放課の様子など	□
第3回	低学年の参観2限	2つの小学校に分かれて全職員へのあいさつ後、低学年の2限目の授業を自分の視点を明らかにして参観する。	□
第4回	低学年の参観3限	低学年の3限目の授業を自分の視点を明らかにして参観する。	□
第5回	低学年の授業の振り返り	低学年の参観について、各視点に基づく振り返りを集団討論法で行う。	□
第6回	中学年の参観2限	中学年の2限目の授業を自分の視点を明らかにして参観する。	□
第7回	中学年の参観3限	中学年の3限目の授業を自分の視点を明らかにして参観する。	□
第8回	中学年の授業の振り返り	中学年の参観について、各視点に基づく振り返りを集団討論法で行う。	□
第9回	高学年の参観2限	高学年の2限目の授業を自分の視点を明らかにして参観する。	□
第10回	高学年の参観2限	高学年の3限目の授業を自分の視点を明らかにして参観する。	□
第11回	高学年の授業の振り返り	高学年の参観について、各視点に基づく振り返りを集団討論法で行う。	□
第12回	それぞれの視点における各学年の特徴の比較Ⅰ	それぞれの視点における各学年の特徴を掴み、教員の対応や発達段階における違いを明確にする。(①②③を中心に)	□
第13回	それぞれの視点における各学年の特徴の比較Ⅱ	それぞれの視点における各学年の特徴を掴み、教員の対応や発達段階における違いを明確にする。(④⑤⑥を中心に)	□
第14回	教師の授業力	発問や子どもの考えの取り上げ方、板書の仕方など授業を進めるうえでの基本とともに、教材研究の在り方を探究する。	□
第15回	学校参観の成果と課題	学校(授業)参観の成果と課題を集団討議法でまとめる。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として次回のテーマに関する資料を配布する。資料を基に何が課題となるか明らかにすること(2時間)。事後学習としてポイントとなったことを明確にし教育実習等での具体的行動をまとめること(2時間)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の観察記録用紙を基にした報告から共通課題を明確にし、集団討議への問題提起を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	十分な教材研究のもと、小学生の実態や発達段階を考慮して授業が進められていることを、観察後に報告できる。また、他者と意見交換する中で自分の指導法を考え、発表することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

子どもの活動と教師のかかわりを具体的に捉えることができたかを報告内容から評価する。より良い指導法を構築するために他者の意見を十分取り入れているか評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	新任教員研修用の資料をテキストにする。	
2	学習指導案参考例集の資料をテキストにする。	
3	その他の参考文献・資料は適宜紹介する。	
4		
5		